

(様式第 10)

宮大医医第 217 号  
令和元年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人  
池ノ上

宮崎大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地
氏 名	国立大学法人 宮崎大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

宮崎大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地	電話 ( 0985 ) 85 - 1510
--------------------------------	-----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等 ① 循環器内科 ② 腎臓内科 ③ 消化器内科 ④ 血液内科 ⑤ 腫瘍内科 ⑥ 神経内科 ⑦ 感染症内科 ⑧ 呼吸器内科 ⑨ 内分泌・代謝・糖尿病内科 ⑩ リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有
外科と組み合わせた診療科名 ① 心臓血管外科 ② 消化器外科 ③ 形成外科 ④ 呼吸器外科 ⑤ 乳腺外科 ⑥ 小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科
7産婦人科	⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科
13放射線診断科	14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科		

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有
歯科と組み合わせた診療科名 ① 歯科口腔外科・矯正歯科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

① リハビリテーション科	② 病理診断科	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
					13

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	596床	632床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	293人	110人	354.8人	看護補助者	人	診療エックス線技師	人
歯科医師	12人	6人	18人	理学療法士	16人	臨床検査技師	49人
薬剤師	42人	人	42人	作業療法士	6人	衛生検査技師	1人
保健師	1人	人	1人	視能訓練士	11人	その他	人
助産師	30人	4人	32.6人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	567人	43人	600.1人	臨床工学士	15人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	人	人	人	栄 養 士	人	その他の技術員	48人
歯科衛生士	3人	3人	5.3人	歯科技工士	1人	事務職員	158人
管理栄養士	9人	人	9人	診療放射線技師	32人	その他の職員	72人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	28人	眼科専門医	10人
外科専門医	19人	耳鼻咽喉科専門医	5人
精神科専門医	4人	放射線科専門医	14人
小児科専門医	13人	脳神経外科専門医	10人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	21人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	20人
産婦人科専門医	9人	救急科専門医	8人
		合 計	174人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (鮫島 浩) 任命年月日 平成28年4月1日

平成24年4月1日～平成25年9月30日 (医療安全管理委員会委員)  
 平成25年10月1日～平成26年3月31日 (医療安全管理委員会委員長)  
 平成26年4月1日～現在 (医療安全管理委員会委員)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	517.6 人	10.9 人	528.5 人
1日当たり平均外来患者数	995.2 人	84.4 人	1079.6 人
1日当たり平均調剤数			2,507 剤
必要医師数			115 人
必要歯科医師数			7 人
必要薬剤師数			32 人
必要(准)看護師数			302 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数			
集中治療室	414.4m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	16床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 276.4m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	16床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 49m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 薬剤部管理指導室					
化学検査室	334 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) (主な設備) 検体前処理装置、生化学自動分析装置(TBA2000FR, c16000,)、全自動血糖分析装置、グリコヘモグロビン分析計、自動電気泳動装置、全自動化学発光免疫測定装置(i2000SR, cobas8000, i1000, e411)			
細菌検査室	87.2m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動薬剤感受性装置、自動血液培養装置、菌種同定質量分析装置、自動染色装置、P3検査室			
病理検査室	181.1m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 組織自動染色装置、細胞診自動染色装置、自動封入装置、自動免疫染色装置、サイトスピン、ThinPrep、Fish装置、パラフィン包埋作製装置、遠心分離機、ミクロトーム、ドラフト装置、セーフティキャビネット、セーフティラック、恒温器、伸展器、温浴器、純粋製造装置、顕微鏡、電子天秤、VOLTEX、排気機能付き切り出し台、撮影装置、フローユニット、凍結切片作製装置			
病理解剖室	52.5m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、ストレッチャー、ホルマリン排気ボックスBOX、セーフティラック、解剖用骨切断鋸装置、パソコン(CUMNAVI用)、電子天秤、電子計量器、オートクレーブ、解剖器具一式、器具収納棚			

研究室	2650m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、書庫、机 ほか	
講義室	553 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 2 室	収容定員 475 人
図書室	1908 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 6 室	蔵書数 123,884 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	90.3%	逆紹介率	67.6%
算出根拠 A: 紹介患者の数			9,480 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			7,794 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			928 人
D: 初診の患者の数			11,526 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

#### 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
吉村麻里子	佐賀大学医学部 附属病院	○	医療安全管理識見者	無	1
大久保 哲	宮崎産業経営 大学		法律に関する識見者	無	1
藤久保亜希	宮崎市子育て 支援センター		医療を受ける者	無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)  
3. その他

#### 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 本院 HP に公開	



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	33人
難治性高コレステロール血症に随伴して重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名	難治性気分障害に対する経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 精神療法・薬物療法等の治療に抵抗性のうつ病をはじめとする気分障害に対し、患者の同意を得たうえで経頭蓋療法を行っている。			
医療技術名	網膜変性患者の遺伝子解析	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 網膜変性患者の疾患遺伝子を検索し、原因を解明する。			
医療技術名	妊娠22～23週の超未熟児に対する集学的集中治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 妊娠22～23週で出生した未熟児は生存限界であり、呼吸循環管理に加え、消化管、皮膚、感染症対策など集学的な管理と緻密なケアとを必要とし、妊娠24週以降とは別レベルの高度医療が必要である。			
医療技術名	癒着胎盤の術前診断と周術期管理	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 妊娠中期から超音波画像、MRI画像を用いた画像診断と危機的出血を回避するための集学的(輸血部、放射線部、手術部、泌尿器科、麻酔科等)管理。			
医療技術名	ケミカルピーリング	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 尋常性ざ瘡等の疾患に対し行う。			
医療技術名	円形脱毛症へのDPCP療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 難治性の円形脱毛症に対し、DPCPを用いた免疫賦活療法を行っている。			
医療技術名	皮膚酒查に対する色素レーザー療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 酒查皮に対し、レーザー療法を行う。			
医療技術名	口腔癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 口腔癌症例において、頸部リンパ節への転移の有無を、センチネルリンパ節理念により術中に同リンパ節を固定し摘出し、迅速に病理組織学的に転移しているか否かを診断し、その結果により頸部郭清術を施行するか否かを決定する。			
医療技術名	在胎22週～24週で出生した児に対する全身管理	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 生育の限界にあるこの週数で出生した児に対する集学的治療。			
医療技術名	Ex utero intarapartum treatment	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 胎盤循環を保ったまま胎児の外科的処置を行う集学的治療。			
医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 新生児の腎不全に対して行う透析療法。			



医療技術名	遺伝性疾患患者に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	128人
当該医療技術の概要			
遺伝性疾患患者ならびにその家族に対し、疾患の遺伝性、再発率、サポートグループの情報提供を行うとともに、心理的ケアを行う。			
医療技術名	難聴遺伝子解析	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
保険診療で検出されなかった遺伝子変異を解析。			
医療技術名	難治性潰瘍性大腸炎を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
医師主導治験第Ⅱa相試験として、ステロイド抵抗性潰瘍性大腸炎患者に対してアドレノメデュリンの1日8時間の持続点滴を14日間実施し、8週間経過を追跡する。			
医療技術名	インフリキシマブ治療抵抗性クローン病患者を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
医師主導治験第Ⅱa相試験として、生物学的製剤で効果不十分なクローン病患者に対してアドレノメデュリンの1日8時間の持続点滴を7日間実施し、8週間経過を追跡する			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	57
2	筋萎縮性側索硬化症	16	57	特発性拡張型心筋症	30
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	肥大型心筋症	14
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	0	60	再生不良性貧血	10
6	パーキンソン病	69	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	1	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	13
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	5
11	重症筋無力症	69	66	IgA腎症	12
12	先天性筋無力症候群	1	67	多発性嚢胞腎	15
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	35	68	黄色靱帯骨化症	11
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	25	69	後縦靱帯骨化症	71
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クロー・深瀧症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	63
17	多系統萎縮症	12	72	下垂体性ADH分泌異常症	18
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	17	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病	10	74	下垂体性PRL分泌亢進症	27
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	13	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	24
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	109
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	7	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	6	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	65
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	16
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	16
32	自己食空腔性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	9
34	神経線維腫症	25	89	リンパ管腫症	1
35	天疱瘡	19	90	網膜色素変性症	12
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	18	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	24
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	4
40	高安動脈炎	12	95	自己免疫性肝炎	12
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	210
42	結節性多発動脈炎	8	97	潰瘍性大腸炎	259
43	顕微鏡的多発血管炎	24	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	8	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	7	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	2	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	2	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	146	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	76	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	73	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	31	107	若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	38	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	10	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	3
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	1	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性 性脳動脈症	1	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性 白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	1	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鯉耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マジニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	1
158	結節性硬化症	4	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	2
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	2

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	1
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	4	263	脳髄黄色腫症	1
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モット症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	22	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	7
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	1	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	6
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	13

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	1
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	2

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 後発医薬品使用体制加算1
・ 歯科外来診療環境体制加算2	・ 病棟薬剤業務実施加算1
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 病棟薬剤業務実施加算2
・ 特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1)	・ データ提出加算2及び注2に係る加算(提出データ評価加算)
・ 特定機能病院入院基本料 精神病棟(13対1)及び注4に係る加算(重度認知症加算)	・ 入退院支援加算1及び注7に係る加算(入院時支援加算)
・ 超急性期脳卒中加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 診療録管理体制加算1	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 医師事務作業補助体制加算1(15対1)	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上)及び注2、注3に係る加算(夜間100対1、夜間看護体制加算)	・ 救命救急入院料1
・ 看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・ 特定集中治療室管理料2及び注2に係る加算(小児加算)
・ 看護補助加算2	・ 総合周産期特定集中治療室管理料(1 母体・胎児集中治療室管理料)
・ 療養環境加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料(2 新生児集中治療室管理料)
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 無菌治療室管理加算1	・ 小児入院医療管理料2及び注2に係る加算(プレイルーム加算)
・ 無菌治療室管理加算2	
・ 緩和ケア診療加算	
・ 精神科身体合併症管理加算	
・ 精神科リエゾンチーム加算	
・ 摂食障害入院医療管理加算	
・ 栄養サポートチーム加算	
・ 医療安全対策加算1	
・ 感染防止対策加算1及び注2、注3に係る加算(感染防止対策地域連携加算、抗菌薬適正使用支援加算)	
・ 患者サポート体制充実加算	
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ ハイリスク妊娠管理加算	
・ ハイリスク分娩管理加算	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 検体検査管理加算(IV)
・ がん患者指導管理料イ	・ 国際標準検査管理加算
・ がん患者指導管理料ロ	・ 遺伝カウンセリング加算
・ がん患者指導管理料ハ	・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ 外来緩和ケア管理料	・ 胎児心エコー法
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ ヘッドアップティルト試験
・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 院内トリアージ実施料	・ 神経学的検査
・ 外来放射線照射診療料	・ 補聴器適合検査
・ ニコチン依存症管理料	・ ロービジョン検査判断料
・ 療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	・ コンタクトレンズ検査料1
・ ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・ 内服・点滴誘発試験
・ がん治療連携計画策定料	・ CT透視下気管支鏡検査加算
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 有床義歯咀嚼機能検査1のイ
・ 薬剤管理指導料	・ 有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・ 医療機器安全管理料1	・ 精密触覚機能検査
・ 医療機器安全管理料2	・ ポジトロン断層撮影
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・ CT撮影及びMRI撮影
・ 在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・ 外来化学療法加算1
・ 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・ 無菌製剤処理料
・ 遺伝学的検査	・ 心大血管疾患リハビリテーション料(I)及び初期加算
・ 骨髄微小残存病変量測定	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(I)及び初期加算
・ 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・ 運動器リハビリテーション料(I)及び初期加算
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ 呼吸器リハビリテーション料(I)及び初期加算

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ がん患者リハビリテーション料	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・ 歯科口腔リハビリテーション料2	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ 救急患者精神科継続支援料	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 医療保護入院等診療料	・ 経カテーテル大動脈弁置換術
・ 硬膜外自家血注入	・ 経皮的中心筋焼灼術
・ 人工腎臓	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ 導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・ 手術用顕微鏡加算	・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・ 口腔粘膜処置	・ 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・ う蝕歯無痛の窩洞形成加算	・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・ 歯科技工加算1及び2	・ 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・ センチネルリンパ節加算	・ バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・ 組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ 体外衝撃波胆石破砕術
・ 後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・ 腹腔鏡下肝切除術
・ 脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・ 体外衝撃波膵石破砕術
・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術	・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・ 生体腎移植術
・ 網膜再建術	・ 膀胱水圧拡張術
・ 人工中耳植込術	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ 人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術	・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術	・ 歯科矯正診断料
・ 医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術	・ 顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・ 輸血管理料 I	
・ 輸血適正使用加算	
・ 貯血式自己血輸血管理体制加算	
・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・ 歯周組織再生誘導手術	
・ 手術時歯根面レーザー応用加算	
・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・ 歯根端切除手術の注3	
・ レーザー機器加算	
・ 麻酔管理料(I)	
・ 麻酔管理料(II)	
・ 放射線治療専任加算	
・ 外来放射線治療加算	
・ 高エネルギー放射線治療	
・ 強度変調放射線治療(IMRT)	
・ 画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
・ 体外照射呼吸性移動対策加算	
・ 定位放射線治療	
・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
・ 画像誘導密封小線源治療加算	
・ 保険医療機関間の連携による病理診断	
・ 病理診断管理加算2	
・ 悪性腫瘍病理組織標本加算	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・有床義歯咀嚼機能検査	・
・硬膜外自家血注入	・
・骨髄微小残存病変量測定	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断部門: 160 回/年
剖検の状況	剖検症例数 21 例 / 剖検率 7.6 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
循環調節ペプチド・アドレノメデュリンによる造影剤腎症発症抑制・脳梗塞急性期治療を旨とした臨床応用開発	北村 和雄	循環器内科	400,000	委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
脳梗塞急性期のアドレノメデュリン静注療法の確立	北村 和雄	循環器内科	500,000	委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
難治性潰瘍性大腸炎を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施	北村 和雄	循環器内科	91,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ビッグアンジオテンシン-25の測定意義と組織アンジオテンシンII生成機構の解明	永田 さやか	循環器内科	1,300,000	補 科学研究費補助金(文部科学省)
新規アドレノメデュリン誘導体を循環器疾患治療薬として開発するための基礎研究	北村 和雄	循環器内科	7,410,000	補 科学研究費補助金(文部科学省)
ブタ心房組織に存在する新規循環調節ペプチドの系統的探索	北村 和雄	循環器内科	1,040,000	補 科学研究費補助金(文部科学省)
インフリキシマブ治療抵抗性クローン病患者を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施	北村 和雄	循環器内科	117,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
急性冠症候群の高リスク患者の抽出、および再発予防を旨とした病理組織診断の構築	西平 賢作	循環器内科	2,210,000	補 科学研究費補助金(文部科学省)
宮崎県健康診断尿潜血陽性登録者における診断・スクリーニングスコア法の検証と改訂	藤元 昭一	腎臓内科	520,000	委 学校法人順天堂 順天堂大学
診療連携・国際連携をも視野にいた、生活習慣病、CKDの診療の質向上に直結する多施設長期コホート研究	藤元 昭一	腎臓内科	390,000	委 国立大学法人筑波大学
難治性血管炎に関する調査研究	藤元 昭一	腎臓内科	362,000	補 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
難治性腎障害に関する調査研究	藤元 昭一	腎臓内科	450,000	補 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効率的なフォローアップシステムの開発・実用化に向けた研究	永田 賢治	肝臓内科	250,000	補 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
成人T細胞白血病リンパ腫に対するレナリドミド作用機序の解明を旨とした研究	下田 和哉	血液内科	1,000,000	委 国立研究開発法人国立がん研究センター
難治性リンパ腫に対するMALT1阻害剤の開発	下田 和哉	血液内科	13,000,000	委 国立大学法人京都大学
創薬に向けた、CALR変異とfibrocyteに着目する骨髄増殖性腫瘍研究	下田 和哉	血液内科	5,460,000	補 科学研究費補助金(文部科学省)

成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)最適化医療の確立とハイリスクキャリアの同定	下田 和哉	血液内科	42,680,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成人T細胞白血病リンパ腫に対する新規テーラーメイド治療	下田 和哉	血液内科	10,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
遺伝子改変マウスを用いたHTLV-1関連疾患の病態解明および新規治療法探索	亀田 拓郎	血液内科	1,820,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
CALRが関わる造血シグナル伝達と、その破綻による骨髄増殖性腫瘍発症機序の解明	幣 光太郎	血液内科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
高濃度から中・低濃度砒素曝露による慢性砒素中毒症の神経障害に関する国際比較研究	望月 仁志	神経内科	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
超高感度尿中シェディング産物網羅的解析を応用した早期肺癌診断マーカーの探索研究	松元 信弘	呼吸器内科	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
交感神経の過活動の制御を焦点とするARDSおよび肺癌への新たな治療戦略の検討	坪内 拓伸	呼吸器内科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
免疫チェックポイント阻害薬ニボルマブが誘発する1型糖尿病、間質性肺疾患の発症に関連する原因遺伝子多型・変異の探索的研究	上野 浩晶	内分泌・代謝・糖尿病内科	108,000	委	国立大学法人長崎大学
肺発生時の上皮細胞運命制御とプログラムされた細胞老化におけるPtenの役割	三浦 綾子	内分泌・代謝・糖尿病内科	2,210,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
内在性antisense RNAによるセレノプロテインP翻訳制御機構の解析	三田 雄一郎	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
新規生理活性ペプチドの固定と摂食調節機序の解明	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	5,330,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
肺発生時の二種類の上皮前駆細胞を制御する細胞ダイナミクスと細胞老化機構の解明	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	2,210,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	100,000	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
超高感度尿中微量蛋白質解析技術を用いた肺癌と膵臓癌の新規早期診断マーカー開発研究	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	22,245,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自律神経・ペプチド連関を基軸とするエネルギー代謝と免疫制御機構の解明	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	51,922,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
独創的な尿中蛋白質断片解析法により同定した高感度の早期肺癌・膵臓癌診断マーカーの検診への導入を目指した多施設検証と企業化の実現	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	47,666,520	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高脂肪食による神経の炎症から肥満を来す機序の解析	迫田 秀之	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
上皮内因子が指揮する組織幹細胞ニッチ機構を焦点とした喫煙関連肺疾患の病態解明	柳 重久	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)

HTLV-1の疫学研究及び総合対策に資する研究	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	1,400,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HAM・HTLV-1陽性難治性疾患の診療ガイドラインに資する統合的レジストリーの構築によるエビデンスの創出	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	975,000	委	学校法人聖マリアンナ医科大学
ヒトとウイルスのゲノム情報と臨床情報の統合によるHTLV-1関連疾患の診療支援全国ネットワークの確立	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	1,800,000	委	国立大学法人京都大学
HAMならびにHTLV-1陽性難治性疾患に関する国際的な総意形成を踏まえた診療ガイドラインの作成	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	350,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
高浸淫地域における SFTS感染症の血清学的迅速診断検査法の開発と臨床応用	松田 基弘	膠原病・感染症内科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
エクソソーム誘導性シグナルを介すHTLV-1による関節リウマチ病態修飾機構の解明	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	2,210,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
レーザーマイクロダイセクション法による画期的な病原体診断法の開発	高城 一郎	膠原病・感染症内科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
炎症性腸疾患を対象としたアトノマデュリン療法の開発における補完研究	芦塚 伸也	消化器内科	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
熊本地震時の近隣県支援者の実態把握と受援システムの構築と検証に関する研究	松尾 寿栄	精神科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
光遺伝学を用いて解析するレボドパ誘発性不随意運動におけるアストロサイトの機能関与	石田 康	精神科	1,820,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
個別化薬物療法最適化の基盤となる薬物代謝酵素活性を評価する核医学画像診断法の確立	石田 康	精神科	130,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
慢性肉芽腫症腸炎に対する小児用サリドマイド製剤の実用化に関する研究	盛武 浩	小児科	1,000,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
CDC42阻害剤による武内・小崎症候群の治療法の開発	盛武 浩	小児科	3,250,000	委	学校法人慶應義塾
小児骨髄系腫瘍に対する標準的治療法の確立	盛武 浩	小児科	260,000	委	国立大学法人京都大学
尿中ボウマン嚢上皮細胞mRNAによる糸球体腎炎の非侵襲的バイオマーカーの確立	此元 隆雄	小児科	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
移植関連血栓性微小血管障害における補体関連遺伝子の変異解析	山田 愛	小児科	1,560,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
網羅的遺伝子解析をとおして固定した家族性白血病原因遺伝子の機能解析	盛武 浩	小児科	910,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
慢性肉芽腫症マウスを用いたPEG-DAO酵素補充療法の開発	布井 博幸	小児科	130,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)

白血病増殖を抑制する骨髄代謝環境の構築	齋藤 祐介	小児科	2,080,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
消化器癌患者の予後改善のための研究及び支援	七島 篤志	肝胆膵外科	1,000,000	委	串間市民病院
レジリエンス・エンジニアリング理論の手術安全支援システムへの実用化研究と教材開発	綾部 貴典	呼吸器・乳腺外科	1,560,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
間質性肺炎合併肺癌術後の新規治療戦略の構築	前田 亮	呼吸器・乳腺外科	1,820,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
都城市の健康づくり推進事業の効果・検証に関する研究	帖佐 悦男	整形外科	495,000	委	都城市
骨・軟骨代謝制御に関する新規遺伝子群の網羅的機能解析	永井 琢哉	整形外科	1,820,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
明らかな骨量増加を呈するTmem161a遺伝子欠損マウスの機能解析	関本 朝久	整形外科	1,820,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
健康に与えるロコモティブシンドロームの影響に関する研究	帖佐 悦男	整形外科	6,960,000	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
患者由来ゼノグラフトモデルを用いた前立腺癌新規治療薬効果予測マーカーの開発	寺田 直樹	泌尿器科	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
Rhoキナーゼ阻害薬の薬理的検討と虚血性視神経症ラットモデルへの有効性の検討	杉本 貴子	眼科	520,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
アドレノメデュリンの虚血性視神経症への有効性の検討	中馬 秀樹	眼科	390,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
プロモトリーテストに替わる外耳道/鼓膜電気刺激聴覚検査法の開発	東野 哲也	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
難治性聴覚障害に関する調査研究	東野 哲也	耳鼻咽喉・頭頸部外科	500,000	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
沖縄県の難聴患者における効率的難聴遺伝子診断の構築	我那覇 章	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,541,506	補	科学研究費補助金(文部科学省)
母子感染に対する母子保健体制構築と医療技術のための研究	鮫島 浩	産科・婦人科	650,000	委	国立大学法人東京大学
地域での産科医療を支援するための胎児心拍数共同監視システム	鮫島 浩	産科・婦人科	1,000,000	委	串間市民病院
末梢血を用いたミトコンドリア病の迅速診断法の確立	宇藤山 麻衣子	産科・婦人科	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
日向夏みかんから分離した水溶性高分子生理活性多糖類の固定とその作用機序の研究	山口 昌俊	産科・婦人科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)

ユーイング肉腫に対する新規チロシンキナーゼ阻害薬の有効性評価	澤 大介	産科・婦人科	780,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
局所蛋白過剰発現による深部静脈血栓の形成機序解析と治療法の確立	古小路 英二	放射線科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
肺ラジオ波焼灼術効果判定におけるトリプトファン代謝物質の有効性に関する基礎研究	中田 博	放射線科	780,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
神経変性疾患に対する定量的磁化率マッピングの有用性の検討	東 美菜子	放射線科	910,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
診療ガイドラインにおける画像検査の推奨度の決定基準についての研究	東 美菜子	放射線科	1,300,000	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
脳動脈瘤塞栓術におけるHydrogel coilの塞栓効果に関する多施設共同無作為化比較試験(HYBRID study)	平井 俊範	放射線科	158,760	委	公益財団法人神戸医療産業都市推進機構
脳腫瘍に対するNODDIの有用性	門田 善仁	放射線科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
ヒト臍帯動脈におけるmyogenic response の検討	恒吉 勇男	麻酔科	650,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
オレキシン神経活動に及ぼす麻酔薬の影響	須江 宣俊	麻酔科	1,040,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
神経障害性疼痛への間欠的高周波照射とトラマドールの併用療法の有効性及び機序の検討	日高 康太郎	麻酔科	2,080,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
オプトジェネティクスを用いた光による痛み制御～実験動物の開発と疼痛機序の解明～	丸田 豊明	麻酔科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
毛様細胞性星細胞腫における増殖血管内皮の起源の解明	竹島 秀雄	脳神経外科	1,040,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
神経膠芽腫に対する多剤併用分子標的療法の確立	渡邊 孝	脳神経外科	1,600,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
日本人型糖尿病モデルラットの軟食飼育が糖尿病と咀嚼器官の発達と老化に及ぼす影響	永田 順子	歯科口腔外科・矯正歯科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
小児がんサバイバーの口腔およびコミュニケーション機能発達支援プログラムの構築	温水 佳世子	歯科口腔外科・矯正歯科	1,820,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
NF- $\kappa$ B活性化遺伝子発現に基づいた新規非侵襲的OSCC転移診断法の確立	近藤 雄大	歯科口腔外科・矯正歯科	910,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
骨芽細胞由来液性因子によるオーダーメイド骨再生医療のための基盤形成	金氏 毅	歯科口腔外科・矯正歯科	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
完全自己血フィブリン糊の上皮形成能を応用した創部処理法の確立	額縁 衆	歯科口腔外科・矯正歯科	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)

脳卒中寝たきりを半減させるための研究及び支援	落合 秀信	救急科	1,000,000	委	串間市民病院
IDH1変異グリオーマにおけるポルフィリン代謝調節機構の解明	齋藤 清貴	救急科	2,730,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
食を通じた健康システムの確立による健康寿命の延伸委託事業	片岡 寛章	病理診断科	984,075	委	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 片岡平
冠動脈硬化巣の血栓性リスクを反映する非侵襲的画像診断の開発	黒岩 靖淳	病理診断科	1,430,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
口腔扁平上皮癌における細胞膜結合セリンプロテアーゼインヒビターの意義に関する研究	山本 晃士	病理診断科	1,820,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
腸管上皮完全性維持及び病態におけるプロテアーゼ活性制御の意義に関する研究	川口 真紀子	病理診断科	1,820,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
病理組織学、網羅的代謝解析、レオジーを融合したアテローム血栓症の発症機序の解明	浅田 祐士郎	病理診断科	4,030,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
アポトーシス標的アイトープ治療による動脈硬化不安定プラーク制御法の開発	浅田 祐士郎	病理診断科	130,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
肺癌の浸潤・転移機構における膜型セリンプロテアーゼインヒビターの機能解析	田中 弘之	病理診断科	1,170,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
膠芽腫の悪性形質に対する多面的アプローチ	福島 剛	病理診断科	1,690,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
細胞膜結合型セリンプロテアーゼインヒビターによる上皮完全性維持と癌抑制機構	片岡 寛章	病理診断科	3,900,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
肺血栓塞栓症の発症病態における静脈血栓由来DAMPsの関与	魏 峻洸	病理診断科	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
神経接着分子 Caspr4 を介した神経精神疾患における新規治療戦略	池田 龍二	薬剤部	130,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
がん微小環境による抗がん薬耐性機序解明と新規分子標的薬の開発	池田 龍二	薬剤部	1,820,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
人工知能技術の医療経営分析への応用プロセスを記録できる診療概念辞書の構築	荒木 賢二	病院IR部	1,300,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
医療-介護のシームレスな情報共有支援方法とそのトラストの検討	鈴木 齋王	患者支援センター	6,110,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)

計 104件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hisamitsu Onitsuka, Shouhei Koyama, Takeshi Ideguchi, et al.	循環器内科	Impact of short-acting loop diuretic doses and cardiac sympathetic nerve abnormalities on outcomes of patients with reduced left ventricular function.	Medicine, 98(8):e14657, 2019 Feb.	Original Article
2	Toshihiro Tsuruda, Johji Kato, Kenji Kuwasako, et al.	循環器内科	Adrenomedullin: Continuing to explore cardioprotection.	Peptides, 111:47-54, 2019 Jan.	Review
3	Yilin Hao, Toshihiro Tsuruda, Yoko Sekita-Hatakeyama, et al.	循環器内科	A high-fat diet is deleterious to mice under glycolysis restriction.	Appl Physiol Nutr Metab., 43(4):419-422, 2018 Apr.	Original Article
4	Chihiro Kawagoe, Yuji Sato, Tatsunori, Toida, et al.	血液浄化療法部	N-terminal-pro-B-type-natriuretic peptide associated with 2-year mortality from both cardiovascular and non-cardiovascular origins in prevalent chronic hemodialysis patients.	Ren Fail., 40(1):127-134, 2018 Nov.	Original Article
5	Hiroyuki Komatsu, Shouichi Fujimoto, Shoichi Maruyama, et al.	腎臓内科	Distinct characteristics and outcomes in elderly-onset IgA vasculitis (Henoch-Schonlein purpura) with nephritis: Nationwide cohort study of data from the Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR).	PLoS One, 13(5): e0196955, 2018 May(オンライン)	Original Article
6	Tatsunori Toida, Reiko Toida, Risa Yamashita, et al.	腎臓内科	Grading of Left Ventricular Diastolic Dysfunction with Preserved Systolic Function by the 2016 American Society of Echocardiography/European Association of Cardiovascular Imaging Recommendations Contributes to Predicting Cardiovascular Events in Hemodialysis Patients.	Cardiorenal Med., 9(3):190-200, 2019 Mar.	Original Article

7	Shoko Ochiai, Yuji Sato, Akihiro Minakawa, et al.	血液浄化療法部	Dasatinib-induced nephrotic syndrome in a patient with chronic myelogenous leukemia: a case report.	BMC Nephrol., 20(1):87, 2019 Mar.	Case report
8	Yuji Sato, Shouichi Fujimoto, Tsuneo Konta, et al.	血液浄化療法部	Anemia as a risk factor for all-cause mortality: obscure synergic effect of chronic kidney disease.	Clinical and Experimental Nephrology, 22(2):388-394, 2018 Apr.	Original Article
9	Yuji Sato, Tatsunori Toida, Hideto Nakagawa, et al.	血液浄化療法部	Diminishing dry weight is strongly associated with all-cause mortality among long-term maintenance prevalent dialysis patients.	PLoS One, 13(8):e0203060, 2018 Aug. (オンライン)	Original Article
10	Ayako Kamiunten, Kotaro Shide, Takuro Kameda, et al.	血液内科	Thrombohemorrhagic events, disease progression, and survival in polycythemia vera and essential thrombocythemia: a retrospective survey in Miyazaki prefecture, Japan.	International journal of hematology, 107(6):681-688, 2018 June	Original Article
11	Ayako Kamiunten, Kotaro Shide, Takuro Kameda, et al.	血液内科	Early/prefibrotic primary myelofibrosis in patients who were initially diagnosed with essential thrombocythemia.	International Journal of Hematology, 108(4):411-415, 2018 Oct.	Original Article
12	Ayako Kamiunten, Masaaki Sekine, Takuro Kameda, et al.	血液内科	Outcome of allogeneic hematopoietic cell transplantation in patients with adult T-cell leukemia.	Hematological oncology, 36(4):651-655, 2018 Oct.	Original Article
13	Kotaro Shide, Takuro Kameda, Ayako Kamiunten, et al.	血液内科	Mice with Calr mutations homologous to human CALR mutations only exhibit mild thrombocytosis.	Blood cancer journal, 9(4):42, 2019 Mar.	Original Article

14	Miyuki Miyamoto, Nobuyuki Ishii, Hitoshi Mochizuki, et al.	神経内科	Optic Neuropathy with Features Suggestive of Optic Neuritis in Cerebrotendinous Xanthomatosis.	Case Rep Neurol Med., 2019:2576826, 2019 Feb.	Case report
15	Nobuyuki Ishii, Hitoshi Mochizuki, Yuka Ebihara, et al.	神経内科	Clinical symptoms, neurological signs, and electrophysiological findings in surviving residents with probable arsenic exposure in Toroku, Japan.	Arch Environ Contam Toxicol. , 75(4) :521-529, 2018 Nov.	Original Article
16	Nobuyuki Ishii, Hitoshi Mochizuki, Miyuki Miyamoto, et al.	神経内科	<sup>18</sup> F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography and magnetic resonance imaging evaluation of chorea.	Neurol Int., 10(3):7780, 2018 Sept.	Case report
17	Nobuyuki Ishii, Hitoshi Mochizuki, Kazutaka Shiomi, et al.	神経内科	Iliopsoas hematoma as a complication of tetanus.	Neurol Clin Neurosci., 7(1):26-30, 2019 Feb.	Original Article
18	Nobuyuki Ishii, Hitoshi Mochizuki, Mitsunori Yamashita, et al.	神経内科	Auditory brainstem response analysis for long-term central auditory function sequelae in patients with chronic arsenic intoxication: A cross-sectional study.	J Neurol Sci., 398:2-3, 2019 Mar.	Letter
19	Takashi Sugiyama, Hitoshi Mochizuki, Yoshine Hara, et al.	神経内科	Disinhibited Blink Reflex Recovery Is Related to Lateral Trunk Flexion in Parkinson Disease.	J. Clin. Neurophysiol., 35(4) :346-350, 2018 July	Original Article
20	Yuka Ebihara, Hitoshi Mochizuki, Nobuyuki Ishii, et al.	神経内科	A Japanese Case of CADASIL with a Rare Mutation in Exon 24 of the NOTCH3 Gene.	Internal Medicine, 57(20):3011-3014, 2018 Oct.	Case report

21	Akihiro Sakamoto, Charnchudhi Chanyasanha, Dusit Sujirarat, et al.	呼吸器内科	Factors associated with pneumococcal vaccination in elderly people: a cross-sectional study among elderly club members in Miyakonojo City, Japan.	BMC Public Health, 18(1):1172, 2018 Oct.	Original Article
22	Kazuko Uto, Shigehisa Yanagi, Hironobu Tsubouchi, et al.	呼吸器内科	Successful treatment of steroid-refractory double-positive ANCA and anti-GBM disease with a combination of plasma exchange and immunosuppression: A case report and literature review.	Respir Med Case Rep., 25:242-246, 2018 Oct.	Case report
23	Shigehisa Yanagi, Takahiro Sato, Kenji Kangawa, et al.	呼吸器内科	The homeostatic force of ghrelin.	Cell Metab., 27(4):786-804, 2018 Apr.	Review
24	Tadashi Okada, T.M. Zaved Waise, Koji Toshinai, et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Analysis of peripheral ghrelin signaling via the vagus nerve in ghrelin receptor-restored GHSR-null mice.	Neurosci Lett., 681:50-55, 2018 Aug.	Original Article
25	Tadashi Okada, Yuichiro Mita, Hideyuki Sakoda, et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Impaired adaption of energy intake induces severe obesity in aged mice on a high-fat diet.	Physiological Reports, 7(3):e13989, 2019 Feb.	Original Article
26	Akiteru Yamada, Kazumi Umeki, Yuji Saeki, et al.	検査部	Detection of microbial genes in a single leukocyte by polymerase chain reaction using laser capture microdissection.	Journal of Microbiological methods, 155:42-48, 2018 Dec.	Original Article
27	Ichiro Takajo, Kunihiko Umekita, Yoshihiko Ikei, et al.	膠原病・感染症内科	Adult T-cell Leukemia/Lymphoma as a Methotrexate-associated Lymphoproliferative Disorder in a Patient with Rheumatoid Arthritis.	Internal Medicine, 57(14):2071-2075, 2018 July	Case report

28	Takeshi Kawaguchi, Yuki Rikitake, Toshihiro Tsuruda, et al.	膠原病・感染症内科	Infliximab as an alternative therapy for refractory adult onset Kawasaki disease.	Medicine, 97(40):e12720, 2018 Oct.	Case report
29	Takeshi Kawaguchi, Daisuke Himeji, Noriaki Kawano, et al.	膠原病・感染症内科	Endobronchial Mucosa-associated Lymphoid Tissue Lymphoma: A Report of Two Cases and a Review of the Literature.	Internal Medicine, 57(15):2233-2236, 2018 Aug.	Case report
30	Hiroshi Kawakami, Tesshin Ban, Yoshimasa Kubota.	消化器内科	Iatrogenic hepatic portal venous gas following balloon endoscopy in a patient with hepaticojejunostomy stricture.	Digestive Endoscopy, 30(4):527-528, 2018 July	Case report
31	Hiroshi Kawakami, Tesshin Ban, Yoshimasa Kubota, et al.	消化器内科	Rendezvous biliary recanalization with combined percutaneous transhepatic cholangioscopy and double-balloon endoscopy.	Endoscopy, 50(7):E146-E148, 2018 July	Case report
32	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota, Tesshin Ban, et al.	消化器内科	Lenvatinib-Induced Acute Pancreatitis Associated With a Pancreatic Pseudocyst and Splenic Pseudoaneurysms.	Pancreas Journal, 47(6):e34-e35, 2018 July	Letter
33	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota, Tesshin Ban.	消化器内科	Novel short curved sphincterotome for wire-guided cannulation and endoscopic sphincterotomy.	Digestive Endoscopy, 30(3):400-402, 2018 May	Case report
34	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota, Tesshin Ban.	消化器内科	Primary Hepatic Diffuse Large B-cell Lymphoma Mimicking Intrahepatic Cholangiocarcinoma.	Internal Medicine, 58(1):143-144, 2019 Jan.	Case report

35	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota, Tesshin Ban.	消化器内科	Ultra-early occlusion of the normal bile duct after uncovered self-expandable metallic stent placement in unresectable perihilar bile duct cancer.	Digestive Endoscopy, 30(4):533-534, 2018 July	Case report
36	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota.	消化器内科	New curved linear echoendoscope for endoscopic ultrasonography-guided fine-needle aspiration in patients with Roux-en-Y reconstruction (with videos).	Endosc Ultrasound, 7(2):128-129, 2018 Apr.	Case report
37	Sho Suzuki, Yoji Takeuchi, Ryu Ishihara, et al.	消化器内科	Hepatic Portal Venous Gas Following Colonic Endoscopic Submucosal Dissection.	Internal Medicine, 58(5):755-756, 2019 Mar.	Case report
38	Tesshin Ban, Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota, et al.	消化器内科	Impact of Franseen needle on rapid onsite evaluation and histological examination following endoscopic ultrasonography-guided tissue acquisition in patients with splenic malignant lymphoma.	Arab Journal of Gastroenterology, 19(2):91-95, 2018 June	Case report
39	Tesshin Ban, Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota.	消化器内科	Transgastric reintervention for self-expandable metallic stent dysfunction following endoscopic ultrasonography-guided hepaticogastrostomy.	Digestive Endoscopy, 30(5):682-683, 2018 Sept.	Case report
40	Tesshin Ban, Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota, et al.	消化器内科	Endoscopic ultrasonography-guided fine-needle biopsy from the pancreatic head of a patient with Roux-en-Y reconstruction.	Endoscopy, 50(8):E202-E204, 2018 Aug.	Case report
41	Keiko Naono-Nagatomo, Hiroshi Abe, Ryuji Araki, et al.	精神科	A survey of the effects of ramelteon on benzodiazepine-dependence: comparison between a ramelteon add-on group and a continuous benzodiazepine administration group.	Asian J Psychiatr, 36:20-24, 2018 Aug.	Original Article

42	Yuta Hayashi, Naoki Yoshinaga, Yuko Yonezawa, et al.	精神科/大学院博士課程	Dissemination of cognitive behavior therapy for mood disorder under Japan's national health insurance scheme: A descriptive study using the National Claims Database with special focus on the southwest region.	Asian Pacific Journal of Health Economics and Policy, 1:2-10, 2018 July	Original Article
43	Atsushi Nanashima, Naoya Imamura, Yori-hisa Sumida, et al.	肝胆膵外科	Clinicopathological aspects and diagnostic problems in patients with intraductal papillary neoplasm of the bile duct.	Anticancer Research, 38(4):2343-2352, 2018 Apr.	Original Article
44	Atsushi Nanashima, Masahide Hiyoshi, Naoya Imamura, et al.	肝胆膵外科	A cohort study on the risk of hepatectomy and pancreatectomy after history of abdominal surgery on other organs.	Annals of HepatoBiliary Pancreatic Surgery, 22(4):344-349, 2018 Nov.	Original Article
45	Atsushi Nanashima, Naoya Imamura, Masahide Hiyoshi, et al.	肝胆膵外科	A resected case of hepato-pancreaticoduodenectomy for widely extended cholangiocarcinoma undergoing previous intra-abdominal poly-surgery.	International Journal of Surgery Case Reports, 53:85-89, 2018 Oct.	Case report
46	Atsushi Nanashima, Naoya Imamura, Masahide Hiyoshi, et al.	肝胆膵外科	A successfully resected case of left trisectionectomy with arterio-portal combined resection for advanced cholangiocarcinoma.	International Journal of Surgery Case Reports, 53:90-95, 2018 Oct.	Case report
47	Atsushi Nanashima, Tetsuro Tominaga, Yori-hisa Sumida, et al.	肝胆膵外科	Indocyanine green identification for tumor infiltration or metastasis originating from hepatocellular carcinoma.	Int J Surg Case Rep., 46:56-61, 2018 Apr.	Case report
48	Kazuhiko Nakame, Roko Hamada, Masaya Suzuhigashi, et al.	肝胆膵外科	Rare case of ectopic pancreas presenting with persistent umbilical discharge.	Pediatrics International, 60(9):891-892, 2018 Sept.	Case report

49	Masaki Tomita, Takanori Ayabe, Kazuyo Tsuchiya, et al.	肝胆膵外科	Fluorodeoxyglucose positron emission tomography can provide useful information for differentiating thymic epithelial tumors.	The Thoracic and Cardiovascular Surgeon, 66(4): 345-349, 2018 June	Original Article
50	Yoshiro Fujii, Atsushi Nanashima, Masahide Hiyoshi, et al.	肝胆膵外科	Significance of bile duct resection for advanced gallbladder cancer without biliary infiltration.	The American Journal of Surgery, 216(6):1122-1126, 2018 Dec.	Original Article
51	Yoshiro Fujii, Atsushi Nanashima, Masahide Hiyoshi, et al.	肝胆膵外科	Risk factors for hepatic insufficiency after major hepatectomy in non-cirrhotic patients.	Asian Journal of Surgery, 42(1):251-255, 2019 Jan.	Original Article
52	Yukinori Tanoue, Atsushi Nanashima, Koichi Yano, et al.	肝胆膵外科	Significance of the preoperative regional maximal removal rate of technetium-99m-galactosyl human serum albumin in the future remnant liver: a sequential study of regional maximal removal rate of technetium-99m-galactosyl human serum albumin in the whole liver.	Nucl Med Commun., 40(2):145-152, 2019 Feb.	Original Article
53	Ayaka Iwasaki, Koji Furukawa, Eisaku Nakamura, et al.	消化管・内分泌・小児外科	Adventitial cystic disease of the common femoral vein misdiagnosed as deep vein thrombosis.	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery, 27(2):312-313, 2018 Aug.	Case report
54	Yuri Nakamura, Shingo Nakahata, Yuudai Kondo, et al.	消化管・内分泌・小児外科	Overexpression of absent in melanoma 2 in oral squamous cell carcinoma contributes to tumor progression.	Biochemical and Biophysical Research Communications, 509(1):82-88, 2019 Jan.	Original Article
55	Kazuhiro Higuchi, Atsushi Nanashima, Masahide Hiyoshi, et al.	消化管・内分泌・小児外科	Resected Intrahepatic Cholangiocarcinoma with Anaphylactic Shock from a Preoperative Liver Function Test before Hepatectomy.	Case Rep Gastroenterol., 13(1):140-143, 2019 Mar	Case report



56	Eisaku Nakamura, Kunihide Nakamura, Koji Furukawa, et al.	心臓血管外科	Selection of a Surgical Treatment Approach for Aortic Coarctation in Adolescents and Adults.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery, 24(2):97-102, 2018 Apr.	Original Article
57	Eisaku Nakamura, Kunihide Nakamura, Koji Furukawa, et al.	心臓血管外科	A Giant Cardiac Cavernous Hemangioma Involving the Left Atrial Roof in an Elderly Woman.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery, 25(1):60-63, 2019 Feb.	Case report
58	Koji Furukawa, Mitsuhiro Yano, Eisaku Nakamura, et al.	心臓血管外科	Mid-term results of mitral valve repair for ischemic mitral regurgitation adjusted according to the degree of remodeling progression.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery, 66(12):707-715, 2018 Dec.	Original Article
59	Koji Furukawa, Eisaku Nakamura, Masanori Nishimura, et al.	心臓血管外科	Maintenance of High Blood Pressure and Early Establishment of Pulsatile Blood Flow to the Spinal Cord during Thoracoabdominal Aortic Repair.	World Journal of Cardiovascular Surgery, 8:175-188, 2018 Oct.	Original Article
60	Masaki Tomita, Takanori Ayabe, Ryo Maeda, et al.	呼吸器・乳腺外科	Serum Carcinoembryonic Antigen Level Predicts Cancer-Specific Outcomes of Resected Non-Small Cell Lung Cancer With Interstitial Pneumonia.	World Journal of Oncology, 9(5-6):136-140, 2018 Nov.	Original Article
61	Masaki Tomita, Takanori Ayabe, Ryo Maeda, et al.	呼吸器・乳腺外科	The Inflammatory Prognostic Index Predicts Cancer-Specific Outcomes of Patients with Resected Non-Small Cell Lung Cancer.	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention, 19(10):2867-2870, 2018 Oct.	Original Article
62	Masaki Tomita, Ayaka Iwasaki, Takanori Ayabe, et al.	呼吸器・乳腺外科	Intrathoracic scapular dislocation following lung cancer resection .	Journal of Surgical Case Reports, 2018(7):rjy178, 2018 July .	Case report

63	Masaki Tomita, Takanori Ayabe, Ryo Maeda, et al.	呼吸器・乳腺外科	Comparison of Inflammation-Based Prognostic Scores in Patients undergoing Curative Resection for Non-small Cell Lung Cancer.	World Journal of Oncology, 9(3):85-90, 2018 June	Original Article
64	Masaki Tomita, Takanori Ayabe, Ryo Maeda, et al.	呼吸器・乳腺外科	Systemic Immune-inflammation Index Predicts Survival of Patients After Curative Resection for Non-small Cell Lung Cancer.	In Vivo, 32(3):663-667, 2018 May-June	Case report
65	Ryo Maeda, Masaki Tomita, Katsuo Usuda, et al.	呼吸器・乳腺外科	Clinicopathologic characteristics of non-small cell lung cancer in patients with smoking-related chronic obstructive pulmonary disease.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery, 67(2):239-246, 2019 Feb	Original Article
66	Deokcheol Lee, Noboru Taniguchi, Katsuaki Sato, et al.	整形外科	HMGB2 is a novel adipogenic factor that regulates ectopic fat infiltration in skeletal muscles.	Scientific Reports, 8(1):9601, 2018 June	Original Article
67	Hiroshi Kuroki, Takuya Nagai, Etsuo Chosa, et al.	整形外科	School scoliosis screening by Moiré topography - Overview for 33 years in Miyazaki Japan.	J Orthop Sci., 23(4):609-613, 2018 July	Original Article
68	Koji Totoribe, Etsuo Chosa, Go Yamako, et al.	リハビリテーション部	Acetabular reinforcement ring with additional hook improves stability in three-dimensional finite element analyses of dysplastic hip arthroplasty.	Journal of Orthopaedic Surgery and Research, 13(1):313, 2018 Dec.	Original Article
69	Koji Totoribe, Etsuo Chosa, Go Yamako, et al.	リハビリテーション部	Finite element analysis of the tibial bone graft in cementless total knee arthroplasty.	Journal of Orthopaedic Surgery and Research, 13(1):113, 2018 May	Original Article

70	Koji Yamasaki, Shoichiro Mukai, Satoru Sugie, et al.	泌尿器科	Dysregulated HAI-2 Plays an Important Role in Renal Cell Carcinoma Bone Metastasis through Ligand-Dependent MET Phosphorylation.	Cancers, 10(6). pii: E190, 2018 June	Original Article
71	Koji Yamasaki, Shoichiro Mukai, Takahiro Nagai, et al.	泌尿器科	Matriptase-induced phosphorylation of MET is significantly associated with poor prognosis in invasive bladder cancer; an immunohistochemical analysis.	Int J Mol Sci., 19(12). pii: E3708, 2018 Nov.	Original Article
72	Masato Fujii, Toshio Kamimura, Hiromasa Tsukino, et al.	泌尿器科	Safe Resection of Renal Cell Carcinoma with Liver Invasion Using Liver Hanging Technique Supported by Preoperative Portal Vein Embolization.	Case Reports in Urology, 2018:5139034, 2018 June	Case report
73	Naoki Terada, Toshiyuki Kamoto, Hiromasa Tsukino, et al.	泌尿器科	The efficacy and toxicity of cabazitaxel for treatment of docetaxel-resistant prostate cancer correlating with the initial doses in Japanese patients.	BMC Cancer, 19(1):156, 2019 Feb.	Original Article
74	Toyoharu Kamibeppu, koji Yamasaki, Kozue Nakahara, et al.	泌尿器科	Caveolin-1 and -2 regulate cell motility in castration-resistant prostate cancer.	Res Rep Urol., 10:135-144, 2018 Oct.	Original Article
75	Takako Hidaka, Hideki Chuman, Nobuhisa Nao-i.	眼科	A Case Report of Intravitreal Bevacizumab for Iris Metastasis of Small Cell Lung Carcinoma with Neovascular Glaucoma.	Case Reports in Ophthalmology, 9(2):401-404, 2018 Aug.	Case report
76	Emi Kino, Yohei Maki, Masanao Ohhashi, et al.	産科・婦人科	A case of mirror syndrome caused by hydrops fetalis after fetoscopic laser photocoagulation.	Clinical Case Reports, 6(6):1010-1013, 2018 Apr.	Case report

77	Kaori Michikata, Yuki Kodama, Masatoki Kaneko, et al.	産科・婦人科	Oral diatrizoate acid for meconium-related ileus in extremely preterm infants.	Pediatrics International, 60(8):714-718, 2018 Aug.	Original Article
78	Seishi Furukawa, Midori Fujisaki, Yohei Maki, et al.	産科・婦人科	Manual removal of placenta in women having unpredictable adherent placenta.	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 45(1):141-147, 2019 Jan.	Original Article
79	Tomoko Yamaguchi, Masatoshi Yamaguchi, Keiko Akeno, et al.	産科・婦人科	Prenatal diagnosis of premature chromatid separation/ mosaic variegated aneuploidy (PCS/MVA) syndrome.	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 44(7):1313-1317, 2018 July	Case report
80	Yasuyuki Kawagoe, Tetsuo Nakayama, Satoshi Matuzawa, et al.	産科・婦人科	Epithelial ovarian carcinoma associated with metastases to central nervous system: Two case reports.	Case Reports in Obstetrics and Gynecology, 2018: 4301247, 2018 Oct.	Case report
81	Kimihiko Endo, Hiroshi Nakada, Yoshihito Kadota, et al.	放射線科	Risk factors for atrophic gastritis in the Japanese young and middle-aged: a study using double-contrast upper gastrointestinal barium X-ray radiography.	Japanese Journal of Radiology, 36(12):706-711, 2018 Dec.	Original Article
82	Minako Azuma, Toshinori Hirai, Yoshihito Kadota, et al.	放射線科	Circumventricular organs of human brain visualized on post-contrast 3D fluid-attenuated inversion recovery imaging.	Neuroradiology, 60(6):583-590, 2018 June	Original Article
83	Ryuichi Nishii, Tatsuya Higashi, Shinya Kagawa, et al.	放射線科	Differential Diagnosis between Low-Grade and High-Grade Astrocytoma Using System A Amino Acid Transport PET Imaging with C-11-MeAIB: A Comparison Study with C-11-Methionine PET Imaging.	Contrast Media Mol Imaging., 2018:1292746, 2018 June	Original Article

84	Taro Kawano, Takeshi Yano, Isao Tsuneyoshi.	麻酔科	Evaluation of the distance between the epidural puncture point and the thoracic cavity using CT images in Japanese adults.	Journal of anesthesia and clinical research, 9(7): 1000847, 2018 July	Original Article
85	Kiyotaka Yokogami, Koji Yamasaki, Fumitaka Matsumoto, et al.	脳神経外科	Impact of PCR-based molecular analysis in daily diagnosis for the patient with gliomas.	Brain Tumor Pathol., 35(3):141-147, 2018 July	Original Article
86	Shinji Yamashita, Kiyotaka Yokogami, Fumitaka Matsumoto, et al.	脳神経外科	MGMT promoter methylation in patients with glioblastoma: is methylation-sensitive high-resolution melting superior to methylation-sensitive polymerase chain reaction assay?	J Neurosurg., 130(3):780-788, 2018 May	Original Article
87	Yuudai Kondo, Yuri Tagawa, Tomohiro Tamura, et al.	歯科口腔外科・矯正歯科	Cervical Lymph Node Metastatic Factors in the Preoperative Diagnosis of Oral Squamous Cell Carcinoma.	Journal of oral cancer and Research, 2(1):18-22, 2018 June	Original Article
88	Hiroaki Kataoka, Takeshi Shimomura.	病理診断科	HGF Activator (HGFA) and its inhibitors HAI-1 and HAI-2: Key players in tissue repair and cancer.	Extracellular Targeting of Cell Signaling in Cancer, 3:69-90, 2018 May	Review
89	Hiroyuki Tanaka, Yutaka Akiyama, Akiko Kitamura, et al.	病理診断科	Malignant mesothelioma with squamous differentiation.	Histopathology, 72(7):1216-1220, 2018 June	Case report
90	Makiko Kawaguchi, Koji Yamamoto, Naoki Takeda, et al.	病理診断科	Hepatocyte growth factor activator inhibitor-2 stabilizes Epcam and maintains epithelial organization in the mouse intestine.	Communications Biology, 2:11, 2019 Jan.	Original Article

91	Tsuyoshi Fukushima, Shuichiro Uchiyama, Hiroyuki Tanaka, et al.	病理診断科	Hepatocyte Growth Factor Activator: A Proteinase Linking Tissue Injury with Repair.	International Journal of Molecular Sciences, 19(11), pii: 3435, 2018 Nov.	Review
92	Tsuyoshi Fukushima, Makiko Kawaguchi, Koji Yamamoto, et al.	病理診断科	Aberrant methylation and silencing of the SPINT2 gene in high-grade gliomas.	Cancer Science, 109(9):2970-2979, 2018 Sept.	Original Article
93	Yuichiro Sato, Tomoko Yamaguchi, Jyunsuke Muraoka, et al.	病理診断科	C4d deposition in fetal vessels of the placenta in neonatal lupus syndrome.	Case Rep Obstet Gynecol., 2019:5863476, 2019 Mar. (オンライン)	Case report
94	Yujiro Asada, Atsushi Yamashita, Yuichiro Sato, et al.	病理診断科	Thrombus Formation and Propagation in the Onset of Cardiovascular Events.	J Atheroscler Thromb., 25(8):653-664, 2018 Aug.	Review
95	Yuki Watanabe, Shohei Koyama, Atsushi Yamashita, et al.	病理診断科/循環器内科	Indoleamine 2,3-dioxygenase 1 in coronary atherosclerotic plaque enhances tissue factor expression in activated macrophages.	Res Pract Thromb Haemost., 2(4):726-735, 2018 July	Original Article
96	Hidenobu Ochiai, Tomohiro Abe.	救急科	Clinical features and early detection of sport-related concussion.	Acute Medicine & Surgery, 6(1):49-53, 2018 Nov.	Original Article
97	Hiroki Tanoue, Naoki Yoshinaga, Sayaka Kato, et al.	看護部/地域・精神看護学講座	Nurse-led group cognitive behavioral therapy for major depressive disorder among adults in Japan: a preliminary single-group study.	International Journal of Nursing Sciences, 5:218-222, 2018 June	Original Article

98	Takuya Sakata, Kenji Araki, Tomoyoshi Yamazaki, et al.	病院IR部	Development of an "Alert Framework" Based on the Practices in the Medical Front.	J Med Syst., 42(6):114, 2018 June	Original Article
99	Naoki Yoshikawa, Tomoya Tazaki, Mari Hatanaka, et al.	薬剤部	Drug-drug interactions among drugs prescribed for nontuberculous mycobacterial infection and epilepsy: A case report.	J Clin Pharm Ther., 44(1):119-121, 2019 Feb.	Case report
100	Takanori Ayabe, Masaki Tomita, Manabu Okumura, et al.	医療安全管理部	Evaluation and Outcomes of Multidisciplinary-Reported Incidents Regarding Patient Safety Management at Special Functioning Hospital in Japan.	Open Journal of Safety Science and Technology, 8: 107-136, 2018 Dec.	Original Article
101	Takanori Ayabe, Masaki Tomita, Ryo Maeda, et al.	医療安全管理部	Fiberoptic Bronchoscopic Removal of Dental Crown Dropped in Bronchus During Dental Treatment.	Biomed J Sci & Tech Res, 11(5):2018, 2018 Dec.	Case report
102	Takanori Ayabe, Masaki Tomita, Manabu Okumura, et al.	医療安全管理部	Evaluation and Outcome of Surgeon-Reported Incidents regarding Surgical Patient Safety.	Surgical Science, 9:422-445, 2018 Nov.	Original Article

計102件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。



(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2. 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容 申請の方法、審査の方法、重篤な有害事象の報告、実施状況の報告等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年8回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象及び基準、臨床研究等実施者の責務、委員会の設置等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年16回
・ 研修の主な内容 臨床研究に関する基礎知識、研究計画書の書き方等	

(注) 前年度の実績を記載すること。



## (様式第 4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

## 1 研修の内容

各診療科における入院・外来患者についての検討や術前・術後の検討を定期的で開催している。また、各診療科の専門分野における教育的な症例や稀な症例について検討する場としての研修を開催している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

## 2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	81 人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

## 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
北村 和雄	循環器内科 ・腎臓内科	教授	38年	
下田 和哉	肝臓内科 ・血液内科	教授	31年	
中里 雅光	神経内科 ・呼吸器内科・ 内分泌・代謝・ 糖尿病内科	教授	38年	
岡山 昭彦	膠原病感染症内 科	教授	38年	
河上 洋	消化器内科	教授	23年	
石田 康	精神科	教授	33年	
盛武 浩	小児科	教授	25年	
七島 篤志	肝胆膵外科	教授	30年	
池田 拓人	消化管・内分泌・	講師	26年	
中目 和彦	小児外科	講師	23年	
中村 都英	心臓血管外科	教授	37年	
富田 雅樹	呼吸器・乳腺外 科	准教授	30年	
伊東 大	形成外科	准教授	24年	
帖佐 悦男	整形外科	教授	34年	
天野 正宏	皮膚科	教授	32年	
賀本 敏行	泌尿器科	教授	31年	
池田 康博	眼科	教授	24年	
東野 哲也	耳鼻いんこう・ 頭頸部外科	教授	37年	
川越 靖之	産科・婦人科	准教授	26年	
平井 俊範	放射線科	教授	29年	
恒吉 勇男	麻酔科	教授	28年	
竹島 秀雄	脳神経外科	教授	35年	
山下 善弘	歯科口腔外科・ 矯正歯科	教授	25年	
片岡 寛章	病理診断科	教授	36年	

細川 歩	臨床腫瘍科	准教授	24年
落合 秀信	救急科	教授	30年
帖佐 悦男	リハビリテーション科	教授	34年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
別紙のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 医療安全管理・感染対策講演会
・研修の期間・実施回数 4回
・研修の参加人数 延べ2584名
・研修の主な内容 医療安全管理に関する追加職員研修
・研修の期間・実施回数 2回
・研修の参加人数 延べ1562名
・研修の主な内容 臨床研究に関する講習会
・研修の期間・実施回数 14回
・研修の参加人数 延べ690名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 臨床検査セミナー（人口知能の医療利活用）
・研修の期間・実施回数 1回
・研修の参加人数 37名
・研修の主な内容
①泌尿器細胞診ワークショップ（鏡検実習）
②第9回宮崎病理診断フォーラム（膵・胆道癌）
③呼吸器細胞診ワークショップ（鏡検実習）
・研修の期間・実施回数
①1回：平成30年9月8日（土） 14時～17時

②1回：平成30年10月6日（土） 15時～18時

③1回：平成31年3月2日（土） 13時～16時

・研修の参加人数

①39名

②43名

③36名

・研修の主な内容 宮崎県病院薬剤師会研修会

・研修の期間・実施回数 5回

・研修の参加人数 延べ529名

・研修の主な内容 病院薬学認定研修会

・研修の期間・実施回数 3回

・研修の参加人数 延べ230名

・研修の主な内容

宮崎県内の診療放射線技師を対象とした放射線診療に関する講演（宮崎放射線技術研究会）

・研修の期間・実施回数 2回

・研修の参加人数 延べ165名

・研修の主な内容 平成30年度宮崎県緩和ケア研修会

がん診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得することを目的とした研修。（座学・グループ演習）

・研修の期間・実施回数 1回：平成30年12月9日（日）

・研修の参加人数 35名

研修の主な内容

① 第10回宮崎リハビリテーション講習会 高次脳機能障害市民公開講座

② 第41回宮崎リハビリテーション研究会



・研修の期間・実施回数

① 1回：平成30年10月21日

② 1回：平成31年2月23日

・研修の参加人数

① 71名

② 79名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。



実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
看護部	プリセプター研修	①「きわみファイル」の活用について ②プリセプターの役割 ③新人の特性 ④新人看護師の成長支援	看護師	490名	講義	1回
看護部	看護管理者研修	①概念化とは ②看護管理者に求められる概念化スキルとは ③概念化スキルを用いた問題解決	看護師	89名	講義	1回
看護部	【院内認定看護師:フォローアップ研修】 ・重症集中ケア ・クリティカルケア	①急性・重症患者の回復を促す看護実践 ②せん妄予防ケア ③今後の活動に関する意見交換	看護師	12名	講義とグループワーク	1回
看護部	救急看護 ～急変サインの見極め方～	①急変の前兆と対応 ②SBARについて	看護師	74名	講義演習	1回
看護部	高齢者のフィジカルアセスメント ～誤嚥性肺炎を防ぐ嚥下・食事介助～	①高齢者のフィジカルアセスメント ②サルコペニア、フレイル、廃用症候群 ③誤嚥性肺炎について	看護師	139名	講義	1回
看護部	問題解決IV	①目撃者の看護管理上の問題の抽出 ②問題解決技法	看護師	3名	講義	1回
看護部	がん薬物療法看護 (知識編)	①症状マネジメントとセルフケア支援 ②栄養管理とがん薬物療法 ③がんリハビリテーション	看護師	80名	講義	1回
看護部	【院内認定看護師:フォローアップ研修】 ・呼吸ケア	①せん妄と呼吸障害について ②終末期の呼吸ケア ③今後の活動に関する意見交換	看護師	16名	講義とグループワーク	1回
看護部	せん妄を予防し、重症化を防ごう	①せん妄とは ②せん妄予防のアセスメント ③せん妄を起こした患者の対応について	看護師	82名	講義	1回
看護部	フィジカルアセスメント1	①バイタルサインの測定方法 ②測定値の解釈とその意味	看護師	52名	講義	1回
看護部	がん放射線療法看護	①放射線が人体に与える影響 ②放射線の有害事象(急性・晩期) ③有害事象に関するケアについて	看護師	62名	講義	1回
看護部	問題解決Ⅲ	①リーダーシップとは ②問題解決の事例レポート	看護師	9名	講義	1回
看護部	豊かな看護のためのリフレクション	①リフレクションとは ②リフレクションに必要なスキル	看護師	21名	グループワーク	1回
看護部	看護倫理Ⅰ	①臨床における看護倫理とは ②看護者の倫理綱領 ③看護職の役割と責務 ・主に人権やプライバシー、質改善に関する36項目	看護師	66名	講義	1回
看護部	医療安全のための基礎技術	①患者確認、指示受けの原則 ②転倒・転落防止、内服薬・麻薬、注射薬 ③輸液ポンプ・シリンジポンプ	看護師	67名	講義演習	3回
看護部	看護記録1	①看護記録の意義・法的位置づけ ②看護記録の倫理的配慮、カルテ開示について ③当院の看護記録の方法がわかる	看護師	66名	講義	1回
看護部	看護研究	①看護研究計画書について ②看護研究における倫理的配慮について ③文献検索について	看護師	12名	グループワーク	1回
看護部	がん薬物療法看護 (技術編)	①血管のアセスメント ②血管確保 ③抗がん薬の血管外漏出時の対策	看護師	52名	実習(1回に2名)	32回
看護部	【院内認定看護師:フォローアップ研修】 ・スキニングケア ・ストマケア ・褥瘡管理	①事例検討 ・事例の劇状態のアセスメントと、必要なスキニングケアや治療について ②今後の活動に関する意見交換	看護師	21名	講義とグループワーク	1回
看護部	心電図 体液バランス 救急蘇生 (BLS, AED, 気管挿管)	①心電図 ・心電図モニターの装着と波形の解釈 ・12誘導心電図の装着と波形の解釈 ②体液バランス ・体液管理に必要な基礎知識 ③急変時の対応 ・救命救急処置	看護師	新規採用者	講義演習	1回
看護部	静脈注射 (抗がん薬編)	①漏薬対策合同ガイドラインについて ②血管外漏出対策について ③抗がん薬の作用と急性期の副作用について ④投与管理の実践について	看護師	1回目:36名 2回目:31名	講義・演習	2回
看護部	インфекションコントロール(IC)	①標準予防策と感染経路予防策の実践 ②感染防止技術の実践 ③医療関連感染サーベイランスの手法 ④演習 ・感染予防トレーニング、事例対応	看護師	5名	講義演習	1回
看護部	静脈注射 (中級麻薬編)	①麻薬の作用 ②疼痛コントロール ③麻薬のシリンジポンプの投与方法の注意点	看護師	52名	講義	1回
看護部	静脈注射 (初級編)	①薬の作用、副作用について ②感染・針刺し事故防止 ③解剖学(安全な部位) ④留置針による血管確保 ⑤静脈注射の院内取り決めについて ⑥血管穿刺の実践  ・シミュレーターを用いた演習 ・受講者同士での演習(新卒者のみ)	看護師	初級編:70名 技術編:既卒17名 新卒49名	講義・演習	1回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
看護部	臨地実習指導者研修	①臨地実習の概要と学生の傾向について ②臨地実習指導者の役割について	看護師	40名	講義	1回
看護部	臨地実習指導者研修	③実習場面の事例の検討	看護師	37名	グループワーク	1回
看護部	看護倫理Ⅱ	Jonsenの分析とその活用について	看護師	30名	講義がん看護専門看護師	1回
看護部	看護記録2	事例を用いた看護過程の展開	看護師	66名	講義・演習	1回
看護部	フィジカルアセスメント2	事例を用いて学ぶ ①呼吸と循環のフィジカルアセスメント	看護師	33名	講義	1回
看護部	緩和ケア	トータルペインへの看護	看護師	78名	講義	1回
看護部	2年目のグローアップ研修	リフレクティブジャーナルを用いた意見交換	看護師	36名	グループワーク	1回
看護部	看護研究等発表	看護研究等の発表	看護師	132名	発表会	1回
看護部	看護技術	基礎技術 ①褥瘡予防 ②安楽な体位 ③呼吸ケア	看護師	69名	講義演習	2回
看護部	伝達研修	研修報告・意見交換	看護師	1回目:124名 2回目:160名	報告会	2回
看護部	災害時に患者の日常生活をどう守りますか?	災害時の患者と医療者自身のトイレや洗面等、日常生活の場をどう確保するか	看護師	135名	講義・演習	1回
看護部	既卒者のフォローアップ研修	情報交換と意見交換	看護師	14名	グループワーク	1回
看護部	新卒者のステップアップ研修1	情報交換と意見交換	看護師	52名	グループワーク	1回
看護部	新卒者のステップアップ研修2	①看護体験の共有 ②KJ法的手法を用いて看護体験の振り返り	看護師	50名	グループワーク	1回
看護部	新卒者のステップアップ研修3	情報交換と意見交換	看護師	49名	グループワーク	1回
整形外科	健康スポーツナース講義	ロコモ共同研究やロコモ検診の目的について、検診の流れについて、研究の概要及び測定方法について、ロコモ機械測定の方法について、注意事項について	看護師	15名	講義	2回
難聴支援センター	難聴支援ナース養成プログラム	●耳の構造や機能、難聴の種類や程度、補聴器の仕組みや効果、難聴患者への接し方などの知識の習得。 ●難聴のある入院患者に対して実施する支援について実習	看護師	2名	講義、演習、実習	年13回
放射線部	放射線部業務研修	放射線部における各種業務について、作成したシミュレーションをもとに実践を行う。	診療放射線技師	32名	業務シミュレーションの実施	年3回
リハビリテーション部	作業療法士勉強会	(H30.4.10)呼吸リハビリEBM (H30.5.9)「作業」の定義 (H30.6.12)A-DOCについて (H30.7.10)COPMについて (H30.8.21)MOHOSTについて (H30.9.6)ICU-ADと作業療法 (H30.10.9)作業バランス (H30.11.6)症例検討 (H30.12.1)日本OT学会の報告 (H31.1.8)人間作業モデルで読み解く作業療法 (H31.2.12)集中治療における早期作業療法 (H31.3.12)未定	作業療法士	作業療法士 全員(5名)	論文・解説や個人作成資料を基にした講義形式	年12回
リハビリテーション部	理学療法士勉強会	・TKA術後の急性期リハビリテーション ・脳血管疾患の早期介入と病床の重要性 ・リハ室内の急変時対応 ・血液データ、悪液質、サルコペニアについて ・当院リハスタッフの小児リハに対する疑問 ・小児運動学習について ・投球障害肩と肘OCDIに対する理学療法と ・スポーツ動作に関わる影響 ・脳卒中に対する急性期リハビリテーション ・急変時の対応 (ABCDの評価・BLSの実技) ・がん患者に対するリハ栄養について ・小児発達とNICUについて	理学療法士	理学療法士 全員(16名)	講義形式	年10回
リハビリテーション部	定期勉強会	・運動器疾患に対する理学療法 ・脳卒中患者の早期離床は危険か? ・器具に関する制度について ・胸部運動システムについて ・障害者の自動車運転 ・PNFの概要と実践について ・がん理学療法について ・慢性呼吸器疾患の理学療法とADL指導 ・食事姿勢の実践について ・心疾患のレジスタンストレーニング ・非言語的コミュニケーション	理学療法士 作業療法士 言語聴覚療法士	27名	勉強会形式	年12回

実施部門	研修名	内容・プログラム	対象職種	参加者数	研修方法	開催回数
リハビリテーション部	高次脳機能障害勉強会	4月:文献抄読(ゲルストマン症候群) 5月:症例検討(注意障害) 6月:症例検討(脳腫瘍) 7月:症例検討(鏡床出血) 8月:症例検討(脳室内出血) 9月:症例検討(産後の脳出血) 10月:文献抄読(脳腫瘍症例の高次脳機能障害) 11月:文献抄読(抗てんかん薬) 12月:文献抄読(左利き患者の言語中枢) 1月:文献抄読(子供の発達と感覚統合) 2月:症例検討(ヘルペス脳炎)	作業療法士 言語聴覚士	作業療法士 言語聴覚士 (9名)	文献抄読症例検討	年12回
リハビリテーション部	言語聴覚療法士勉強会	症例検討、文献抄読会、研究発表予演会などを担当者持ち回りで実施。 「感覚統合」 「研究発表予演会～ATRITの一例における発達経過」 「覚醒下手術の実際」 「嚥下について」 「高齢者のフィジカルアセスメント」 「抗てんかん薬療法の問題点」 「症例検討～腎臓炎」 「症例検討～ダウン症」	言語聴覚療法士	言語聴覚療法士全員(4名)	講義形式	年8回



(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 鮫島 浩
管理担当者氏名	佐藤 貴紀

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	電子媒体 (電子カルテ) 及び 各診療科	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則電子カルテ、ただし紙カルテは外来、入院別に1患者1ファイル方式のID番号順で分類。</li> <li>エックス線写真は電子媒体に保存</li> </ul>	
		各科診療日誌			
		処方せん			
		手術記録			
		看護記録			
		検査所見記録			
		エックス線写真			
		紹介状			
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課		
		高度の医療の提供の実績	医事課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課		
		高度の医療の研修の実績	総務課		
		閲覧実績	総務課		
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部		
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部		
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課		<ul style="list-style-type: none"> <li>電子媒体 (医療支援課共有フォルダ内) 保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管。</li> </ul>
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課		
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課		

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課 薬剤部	・薬剤部教授室にて紙媒体で保管。
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	手順書：全部署 実施状況：薬剤部	・調剤室、製剤室、薬剤部教授室にて紙媒体で保管。
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	管理課	・各部門に電子媒体で保管。
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	各部門	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	各部門	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課	



		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	・薬剤部教授室にて紙媒体で保管。
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管。
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病院IR部	・電子媒体（病院IR部フォルダ内）保存及び病院IR部内鍵付きキャビネットに保管。
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管。
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	臨床倫理部	・電子媒体（臨床倫理部共有フォルダ内）保存。
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	臨床倫理部	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
		職員研修の実施状況	医療支援課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課	・電子媒体（医療支援課共有フォルダ内）保存及び医療支援課内鍵付きキャビネットに保管。
管理者が有する権限に関する状況	総務課			
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課			

	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課	
--	--------------------------------	-----	--

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	鮫島 浩	
閲覧担当者氏名	佐藤 貴紀	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 3階 ミーティングルーム	
閲覧の手続の概要		
<ul style="list-style-type: none"><li>・内部者については権限を付与し、閲覧を制限している。</li><li>・外部者については、特に定めていない。</li></ul>		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



## 規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療に係る安全管理の基本的考え方</li> <li>2. 医療に係る安全管理体制</li> <li>3. 職員研修・教育</li> <li>4. 事故報告等の医療安全確保を目的とした改善方策</li> <li>5. 医療事故等発生時の対応</li> <li>6. 深刻な感染症事例発生時の対応</li> <li>7. 患者等との情報の共有</li> <li>8. 患者からの相談の対応</li> <li>9. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</li> <li>・ 設置の有無（有）</li> <li>・ 開催状況：年12回</li> <li>・ 活動の主な内容：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療事故防止のための具体的措置に関する事。</li> <li>2. 医療安全管理マニュアルに関する事。</li> <li>3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関する事。</li> <li>4. 医療事故発生時の原因の分析究明、改善策の立案・実施及び職員への周知に関する事。</li> <li>5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関する事。</li> <li>6. 医療事故等発生時の家族や患者への対応状況に関する事。</li> <li>7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関する事。</li> <li>8. 入院患者の全死亡例の報告及び検証に関する事。</li> <li>9. 医療安全管理部の業務に関する事。</li> <li>10. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関する事。</li> <li>11. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関する事。</li> <li>12. その他医療事故等及び医療訴訟に関する事。</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 10 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理に関する講演会（4回）                 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 医療紛争事例から学ぶコミュニケーションの重要性 （PART1）事例紹介、（PART2）事例をふまえた改善策の紹介</li> <li>第2回 新しい輸液ポンプの取り扱いについて</li> <li>第3回 臨床研究と安全管理 ―被験者保護の観点から― 研究参加を求められた立場から思うこと</li> <li>第4回 医療ガス設備の保安全管理について</li> </ul> </li> <li>2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（2回）</li> <li>3. 講演会eラーニング（第1回～第4回）（1回）</li> <li>4. 新規採用者研修（2回）（開催1回、eラーニング1回、他DVD貸出）</li> <li>5. 特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修eラーニング（1回）</li> </ol> </li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</li> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理部会議、医療安全管理委員会での対策の検討、事例報告等</li> <li>2. リスクマネージャー会議での事例報告及び周知</li> <li>3. 作業標準の作成</li> </ol> </li> </ul>	

- |   |
|---|
| 4. 医療安全管理マニュアルの作成・見直し<br>5. 院内ラウンド<br>6. 部署毎の医療安全管理に関する改善計画と改善結果の報告<br>7. 院内全死亡例についての検証 |
|---|

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：</li> <li>1. 院内感染対策に対する基本的な考え方</li> <li>2. 委員会等の組織に関する基本的事項</li> <li>3. 職員研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針報告</li> <li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：</li> <li>1. 感染の予防に関すること。</li> <li>2. 感染の情報の収集に関すること。</li> <li>3. 感染源の追及等のための検査の実施に関すること。</li> <li>4. 防疫対策の確立に関すること。</li> <li>5. その他感染対策についての重要事項に関すること。</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年14回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：</li> <li>1. 医療安全管理に関する講演会（4回）           <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 「手指消毒剤使用量増加への取組み」</li> <li>第2回 「感染制御は全員参加 ー環境整備も抗菌薬適正使用も、もちろん手指衛生もー」</li> <li>第3回 「抗菌薬適正使用に関する最近の話題」</li> <li>第4回 「院内感染対策：最近のトピックス」</li> </ul> </li> <li>2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（2回）</li> <li>3. 講演会e-ラーニング（第1回～第4回）（1回）</li> <li>4. 各部署との勉強会（6回）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5階西病棟 CDトキシンに関する感染対策の検討</li> <li>・ 5階西病棟・5階東病棟・6回西病棟・3階東病棟・2階東病棟               <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 針刺しの現状について 2. 針刺し後の危険性について 3. 針刺し防止対策について</li> <li>4. 針刺し後の対応について 5. 針刺し事故後の採血オーダー方法について</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>5. 新規採用者研修（1回）</li> </ul>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( 有 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  1. 院内感染症事例や法令に定められた感染症の届出および院内での耐性菌動向サーベイランスを行い、必要に応じて病院長への報告、感染制御部、インフェクションコントロールチームでの検討、現場へのフィードバックを行う。
  2. 集団院内感染（アウトブレイク）が発生した場合、報告を受けたリンクドクター・リンクナース、感染担当者など当該科の責任者が医事課・感染制御部へ報告する。CIC は当該科・部門と協力して初期対応、感染拡大抑制に努める。緊急を要する感染症で深刻なものである場合は、医療安全管理部と連携し病院長を本部長とする対策本部を設置し、緊急対策を講ずるとともに再発防止および対応方針を検討する。
  3. 感染制御部による定期的な院内ラウンドの実施、「院内感染対策のための指針」に則した感染対策マニュアルを整備および定期的な見直しを行い院内感染対策の推進を図る。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る  
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年21回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第 3 回医療安全管理・感染対策講演会 抗菌薬適正使用に関する最近の話題</li> <li>2. リスクマネージャー会議（第 4 回）アドバンスドセミナー 医薬品の安全使用&amp;病棟別薬剤勉強会</li> <li>3. 各病棟との勉強会 ハイリスク薬に関して</li> <li>4. 新規採用者研修 静脈注射に用いられる薬剤の基礎知識</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の採用</li> <li>2. 医薬品の購入</li> <li>3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項</li> <li>4. 部署における麻薬の運用</li> <li>5. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項</li> <li>6. 病棟における医薬品の管理</li> <li>7. 外来における医薬品の管理</li> <li>8. 手術部の医薬品管理</li> <li>9. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い（収集、提供等）に関する事項</li> <li>10. 救急部門・集中治療室</li> <li>11. 輸血・血液管理部門</li> <li>12. 生命維持管理装置領域</li> <li>13. 臨床検査部門</li> <li>14. 画像診断部門</li> <li>15. 他施設との連携</li> <li>16. 事故発生時の対応</li> <li>17. 教育・研修に関する事項</li> </ol> <p>上記項目に関し、手順書改定時にチェック表を用いて全項目、各担当者が業務手順書を確認している。</p> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：院内製剤</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品専門部会で情報を把握・収集および審議し、医療安全管理委員会へ報告を行う</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	適宜
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 機器の取扱説明、心筋保護法説明、システムに関する説明</p> <p>(2) 人工呼吸器 機器の取扱説明、各種アラームと対処</p> <p>(3) 血液浄化装置 機器の取扱説明、トラブルについて</p> <p>(4) 除細動器 機器の取扱説明、機器点検に関して</p> <p>(5) 閉鎖式保育器 機器の取扱説明、機器点検に関して</p> <p>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</p> <p>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(2) 人工呼吸器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(3) 血液浄化装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(4) 除細動器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(5) 閉鎖式保育器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p> <p>(7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療機器の不具合や健康被害等に関する院内外の情報について、医療機器安全管理責任者から必要に応じて病院長並びに医療安全管理委員会へ報告するとともに、院内への周知や対応を行う。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 1 3 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有								
<p>・責任者の資格（医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者の配置を、「医療に係る安全管理のための指針」及び「医療安全管理体制」に明記している。併せて、医療安全管理責任者は、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する文言を追記している。</p>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室の担当者に PMDA、論文情報、製薬企業等から得られる情報を収集・整理させ、重要度、緊急性に応じ通知文書、院内ネットワーク、病棟薬剤師および会議等により情報の周知を図っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>調剤時や病棟業務において未承認を含む使用に疑義のある医薬品に関しては、必ず処方医に疑義照会し、必要に応じて処方変更の提案を行い、その結果および警鐘事例を医薬品専門部会、医療安全管理委員会およびリスクマネージャー会議に報告することにより全病院に周知を図っている。</p> <p>・担当者の指名の有無（有）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <table border="0" data-bbox="175 1317 1276 1467"><tr><td>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr></table>		（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）
（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有								
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主説明同意書、説明記録の二次監査（質的監査）を毎月診療科毎に実施している。</p> <p>指導内容：説明同意書、書式に記載している内容の整合性を部会で審議し、修正加筆を指導。</p>									

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療録一次監査（量的監査）、二次監査（質的監査）を毎月実施し、記載内容の確認を行い結果について病院連絡会を通して職員全体に周知、指導を実施している。</li> <li>・指導内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 診療録記載率向上と正確な記載記録の促進</li> <li>2. 新電子カルテシステムでの診療録監査基準の周知、遵守</li> <li>3. インフォームドコンセント、説明同意書について共通様式での標準化記載</li> </ul> </li> </ul>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<p>・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（6）名  うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（5）名  うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（ ）名  うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（ ）名  （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宮崎大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）の運営に関すること。</li> <li>2. インシデント及び医療事故の原因究明状況の確認及び指導に関すること。</li> <li>3. インシデント及び医療事故に関する診療録、看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること。</li> <li>4. インシデント及び医療事故の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。</li> <li>5. 患者からの医療に係る相談に関すること。</li> <li>6. インシデント及び医療事故の調査及び分析に関すること。  （入院患者の全死亡例報告の検証を含む）</li> <li>7. 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。</li> <li>8. 医療安全のための教育・研修に関すること。</li> <li>9. 医療安全管理マニュアルに関すること。</li> <li>10. 医療安全の確保に資する診療内容のモニタリングに関すること。</li> <li>11. 委員会での決定事項の実施状況調査及び見直しに関すること。</li> <li>12. 医療安全のための啓発、勧告、改善命令に関すること。</li> <li>13. その他医療事故防止及び医療の安全管理に関すること。</li> </ol> <p>上記、委員会においての決定事項等をリスクマネージャー会議で伝達し職員に周知している。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）</li> <li>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）</li> <li>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医</li> </ul>	

<p>療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 ( 有 )</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・活動の主な内容： 前年度、診療科から 1 件の申請を受け、高難度新規医療技術評価委員会を開催した。委員会の意見を踏まえ、提供の適否を決定し、申請を行った診療科長に対し結果を通知した。また当該技術が適正な手順に基づいて提供されたかについては、報告書の提出を受け、実施状況を確認し病院長へ報告を行った。</li><li>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 ( 有 )</li><li>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 ( 有 )</li></ul>
---

<p>⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 ( 0 件 )、及び許可件数 ( 0 件 )</li><li>・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 ( 有 )</li><li>・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 ( 有 )</li><li>・活動の主な内容： 一昨年度、診療科から 9 件の申請を受け、未承認新規医薬品等評価委員会を開催した。委員会の意見を踏まえ提供の適否を決定し、申請を行った診療科長に対し結果を通知した。 前年度、診療科からの申請が 0 件であったため、評価委員会は開催されなかった。</li><li>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 ( 有 )</li><li>・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 ( 有 )</li></ul>
---

<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 190 件</li><li>・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 65 件 (3b 以上)</li><li>・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 入院患者の院内死亡事例については、毎週 1 回開催される医療安全管理部会議にて、死亡に至った経緯及び死因を検討し、医療事故調査制度における『予期せぬ死亡』に該当するか否か判定したものを毎月開催される委員会で審議している。 特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象 (3b 以上) についても同様に、毎週 1 回開催される医療安全管理部会議にて、経緯及び原因究明等の調査結果を検討し、毎月開催される委員会にて再発防止策を含め審議している。</li></ul>
---

<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・他の特定機能病院等への立入り ( 有 (病院名：岡山大学医学部附属病院) 11 月 2 日 ) )</li><li>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ ( 有 (病院名：富山大学医学部附属病院) 10 月 15 日 )</li></ul> <p>(技術的助言の実施状況)</p> <p>インシデントレポート報告が 1774 件 (平成 29 年度) とやや少ないように思われることから、報告を促進する取り組みを期待する旨の助言を受け、インシデントレポート報告増に向け、リスクマネージャー会議等で説明し、啓発活動に取り組んでいる。</p>
--

<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・体制の確保状況 宮崎大学医学部附属病院医療安全相談窓口運営要項により、患者からの苦情・相談について適切に対応し医療安全管理部及び病院長に報告をしている。</li></ul>
---

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の内容（すべて）：

1. 医療安全管理に関する講演会（4回）

第1回 医療紛争事例から学ぶコミュニケーションの重要性  
（PART1）事例紹介、（PART2）事例をふまえた改善策の紹介

第2回 新しい輸液ポンプの取り扱いについて

第3回 臨床研究と安全管理 -被験者保護の観点から-  
研究参加を求められた立場から思うこと

第4回 医療ガス設備の保安全管理について

2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（2回）

3. 講演会e-ラーニング（第1回～第4回）（1回）

4. 新規採用者研修（2回）（開催1回、e-ラーニング1回、他DVD貸出）

5. 特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修e-ラーニング（1回）

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

管理者：

平成30年度 特定機能病院管理者研修（平成31年1月23日、京都）

医療安全管理責任者（兼：医療機器安全管理責任者）：

第32回 国立大学附属病院医療安全管理協議会（平成30年11月8日、9日、富山）

平成30年度 特定機能病院管理者研修（平成31年1月23日、京都）

医薬品安全管理責任者：

平成30年度 特定機能病院管理者研修（平成31年1月23日、京都）

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）



規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 基準の主な内容<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医師免許を有している者</li><li>2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、必要な医療安全管理業務の経験及び医療安全管理について十分な知見を有すること。</li><li>3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 当院又は当院以外の病院での組織管理経験など、高度な医療を司る特定機能病院の管理者として必要な資質・能力を有し、病院構成員の意見反映に留意しつつ、医療を取り巻く様々な変化に適切に対応し、強いリーダーシップを持って病院経営にあたり、適正な管理運営ができること。</li><li>4. 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有する者 医学教育、医学研究及び高度医療を担うことができる能力を有すること。</li></ol></li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( 有 )</li><li>・ 公表の方法 大学ホームページに公開している。</li></ul>

規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有			
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( 有 )</li><li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( 有 )</li><li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( 有 )</li><li>・ 公表の方法 大学ホームページに公開している。</li></ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
迫田 浩一郎	理事 (総務担当)	○	医学部附属病院長候補者選考会	無

			議細則第 3 条第 1 号に基づく学 長が指名する理事	
伊達 紫	理事 (女性活躍・ 人財育成担当)		医学部附属病院長候補者選考会 議細則第 3 条第 1 号に基づく学 長が指名する理事	無
丸山 眞杉	医学部長		医学部附属病院長候補者選考会 議細則第 3 条第 2 号に基づく役 職指定者	無
中村 都英	運営審議会構成 員		医学部附属病院長候補者選考会 議細則第 3 条第 3 号に基づく運 営審議会構成員からの選出	無
帖佐 悦男	運営審議会構成 員		医学部附属病院長候補者選考会 議細則第 3 条第 3 号に基づく運 営審議会構成員からの選出	無
川名 隆司	公益社団法人宮 崎市郡医師会長		医学部附属病院長候補者選考会 議細則第 3 条第 4 号に基づく学 長が委嘱する学外有識者宮崎市 郡医師会長として、医療・保健・ 福祉全般に豊富な知見を有する	無
川野 美奈子	宮崎県福祉保健 部長		医学部附属病院長候補者選考会 議細則第 3 条第 4 号に基づく学 長が委嘱する学外有識者宮崎県 の医療に係る担当責任者として、 医療・保健・福祉全般に豊富な知 見を有する	無
山下 恵子	学校法人宮崎学 園宮崎国際大学 学長		医学部附属病院長候補者選考会 議細則第 3 条第 4 号に基づく学 長が委嘱する学外有識者教育に 関する有識者として、豊富な経験 と高い識見を有する	無
久保 敦子	医学部附属病院 看護部長		医学部附属病院長候補者選考会 議細則第 3 条第 5 号に基づくそ の他学長が必要と認める者	無



規則第 9 条の 2 3 第 1 項及び第 2 項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合議体の主要な審議内容 附属病院の管理運営に関する事項を審議</li> <li>・ 審議の概要の従業者への周知状況 病院連絡会議等で周知している</li> <li>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ( 有 )</li> <li>・ 公表の方法 大学ホームページに掲載</li> <li>・ 外部有識者からの意見聴取の有無 ( 無 )</li> </ul>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
鮫島 浩	○	医師	病院長
北村 和雄		医師	循環器内科科長
藤元 昭一		医師	腎臓内科科長
永田 賢治		医師	肝臓内科科長
下田 和哉		医師	血液内科科長
塩見 一剛		医師	神経内科科長
松元 信弘		医師	呼吸器内科科長
中里 雅光		医師	内分泌・代謝・糖尿病 内科科長
岡山 昭彦		医師	膠原病・感染症内科 科長
河上 洋		医師	消化器内科科長
石田 康		医師	精神科科長
盛武 浩		医師	小児科科長
七島 篤志		医師	肝胆膵外科科長
池田 拓人		医師	消化管・内分泌・小 児外科科長
中目 和彦		医師	消化管・内分泌・小 児外科科長
中村 都英		医師	心臓血管外科科長
富田 雅樹		医師	呼吸器・乳腺外科科 長

(様式第 6-3)

伊東 大		医師	形成外科科長
帖佐 悦男		医師	整形外科科長
天野 正宏		医師	皮膚科科長
賀本 敏行		医師	泌尿器科科長
池田 康博		医師	眼科科長
東野 哲也		医師	耳鼻いんこう・頭頸部外科科長
川越 靖之		医師	産科・婦人科科長
平井 俊範		医師	放射線科科長
恒吉 勇男		医師	麻酔科科長
竹島 秀雄		医師	脳神経外科科長
山下 善弘		歯科医師	歯科口腔外科・矯正歯科科長
浅田 祐士郎		医師	病理診断科科長
久富木 庸子		医師	輸血・細胞治療部長
落合 秀信		医師	救命救急センター長
山口 昌俊		医師	遺伝カウンセリング部長
細川 歩		医師	がんセンター長
荒木 賢二		医師	病院IR部長
佐藤 勇一郎		医師	病理部長
白阪 哲朗		医師	ME機器センター長
我那覇 章		医師	難聴支援センター長
吉村 学		医師	地域総合医育成センター長
板井 孝一郎		教授	臨床倫理部長
永田 順子		歯科医師	口唇口蓋裂・口腔育成センター長
鈴木 斎王		医師	患者支援センター長
児玉 由紀		医師	総合周産期母子医療センター長
近藤 千博		医師	コミュニティ・メディカルセンター長
小松 弘幸		医師	医療人育成支援副センター長
榮 健文		医師	IVRセンター長
近藤 雄大		医師	周術期口腔ケアセンター長
池田 龍二		薬剤師	薬剤部長
福満 美和		看護師	看護部長
龍元 裕貴		事務職	事務部長
陪席			
片岡 寛章		医師	医学部長
水口 麻子		医師	病院長補佐
佐伯 裕二		臨床検査技師	検査部技師長
小味 昌憲		診療放射線技師	放射線部技師長

(様式第 6-3)

竹ノ内 博之		臨床検査技師	輸血・細胞治療部技師長
野口 裕史		衛生検査技師	病理部技師長
宮崎 茂明		理学療法士	リハビリテーション部技士長
小田 裕一		臨床工学技士	ME機器センター臨床工学技士
笹葉 啓子		管理栄養士	栄養管理部副部長
奥村 学		薬剤師	副薬剤部長
久保田 智美		看護師	医療安全管理部副部長
綾部 貴典		医師	医療安全管理部副部長
久保 敦子		看護師	理事補佐

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 ( 有 )
- ・ 公表の方法  
大学ホームページに掲載
  
- ・ 規程の主な内容
  - 病院長は、本院の管理運営を総括し、所属職員を監督する。
  - 病院等は、本院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限を有する
  - 科長や部長等の任命権限
  - 科長及び副科長の解任権限
  
- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割
  - 副病院長 8 名 (経営企画・働き方改革担当、医療情報担当、医療安全管理担当、教育研究担当、診療担当、地域医療連携担当、看護担当、事務担当)
  - 病院長補佐 7 名 (薬剤部長、総務課長、管理課長、医事課長、医療支援課長、総務医事課長、女性医師担当)
  
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
大学で管理者研修を実施している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>①医学部附属病院における医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者等の業務の状況について医学部附属病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>②委員会は必要に応じて、学長又は医学部附属病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるようよう意見を述べる。</p> <p>③委員会は上記業務について、その結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有）</p> <p>・ 公表の方法： 本院ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
吉村 麻里子	佐賀大学医学部附属病院	○	医療安全管理有識者	無	1
大久保 哲	宮崎産業経営大学法学部		法律に関する識見者	無	1
藤久保亜希	宮崎市子育て支援センター		医療を受ける者	無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容  
大学業務の監査、分析に関すること。  
大学業務の指導、改善に関すること。
  
- ・ 専門部署の設置の有無 ( 有 )
- ・ 内部規程の整備の有無 ( 有 )
- ・ 内部規程の公表の有無 ( 有 )
- ・ 公表の方法  
本学ホームページに掲載

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況     予算の作成及び執行並びに決算に関する事項     組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項</li><li>・ 会議体の実施状況 ( 年6回 )</li><li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 ( 有 ) ( 年6回 )</li><li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 ( 有 )</li><li>・ 公表の方法     本学ホームページに掲載</li></ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人宮崎大学経営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の  
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( 有 )</li><li>・ 通報件数 (年0件)</li><li>・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( 有 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( 有 )</li><li>・ 周知の方法 本院ホームページに掲載</li></ul>



(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構による、病院機能評価〈3rdG:Ver. 1.1〉を平成29年12月4日から12月5日の期間で受審し、平成30年3月2日付けで認定された。	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
・ 情報発信の方法、内容等の概要 特定機能病院としての役割について、病院のホームページ「病院概要」に記載している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 複数の診療科で受診が必要と判断した場合、コンサルテーションオーダを使用し他診療科と連携することで、柔軟な対応が可能な体制を整備している。 診療科の枠組を超えて、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム等を組織しており、医師だけでなく看護師や各スタッフが必要に応じて連携し、チーム医療を実践している。 手術後の合併症を予防するため、歯科口腔外科と各診療科が連携し、周術期の患者さんの口腔機能管理を実践している。	

